



オリジナル競技「ピン倒しボール競技」(写真)

秋田県特別支援学校校体育連盟は平成14年に設立された。同時に秋田県特別支援学校総合体育大会(以下、特総体)も毎年9月に開催している。

この大会は全県の特別支援学校(12校3分校)と参加を希望する特別支援学級(本年度は13校)から1150人を超す選手が参加して、7競技(綱引、バスケットボール、ユニホック、ピン倒しボール、フライングディスク、グラウンドゴルフ、サッカー)で熱い戦いを展開している。

【ピン倒しボール競技解説】

＜用具＞木製ボウリングピン20本、硬式テニスボール60個

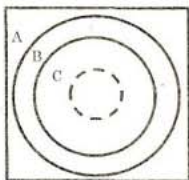
＜主なルール＞

- ・1回の動作で投げるボールは1個
- ・競技時間は2分間で2回実施

・全てのピンを倒した時点で競技終了

＜コート仕様＞

・10m四方のコートをフェンスで囲む



A: 8m サークル(補助具なし選手が投げる位置)

B: 6m サークル(補助具<支援者帯同>使用選手、車いす選手が投げる位置)

C: 2m サークル(的: 木製ボウリングピン20本)

一投一倒に沸く独自競技・ピン倒しボール

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

1チーム5人で、テニスボールを投げたり転がしたりしてサークルに立っている20本のピンを時間内に倒す競技である。競技性は高くないが、選手の意気込みがすごく、わずかに十数秒で全て倒してしまうチームも多い。応援に励めるべく一投一倒にガッツポーズを見せ、また支援者と一緒に目標のピンを狙って確実に

は、障害の程度にかかわらず、小学部から高等部の選手それぞれが楽しく参加できる競技である。選手の障害の状況によって傾斜具(スロープ)を用いたり、選手に合わせた補助具を持ち込んだりもできる。また、車いす利用選手は車いすに乗ったままで競技に参加できる。

〈石垣徹・秋田県特別支援学校体育連盟(県立栗田支援学校内)事務局長〉